

「一人一人が幸福を創りだす子どもに育てるために」

～Well-Being とピア・サポート～

立命館大学大学院教職研究科 菱田準子 教授

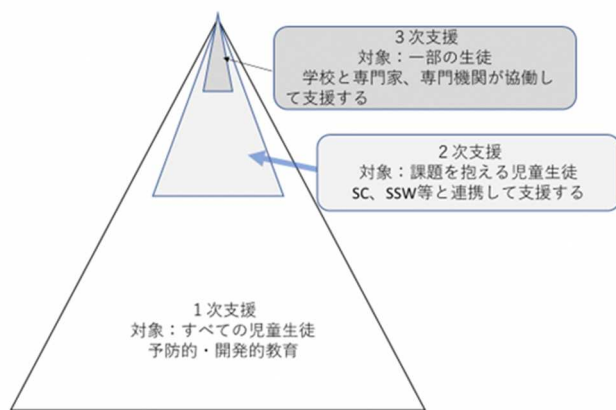
1 人生 100 年時代は生き方改革

「2007 年生まれの子ども2人に1人は107歳まで生きる！」これはリンダ・グラットン博士が著書「LIFE SHIFT」の中で述べていることです。政府ではリンダ・グラットン博士を交えて「人生100年」人づくり改革が始まりました。博士は、人生100年時代には有形資産だけでなく、無形資産①生産資産：知識、スキル、②活性資産：健康、良質な関係性、③変身資産：多様ネットワーク、開かれた体験が必要だと述べています。私はこれらの無形資産を方向付けるものが必要だと考えています。それが「生き方改革」です。

教育課程企画特別部会論点整理「2. 新しい学習指導要領等が目指す姿」（文科省2015）において、「一人一人が幸福な人生を自ら創り出していくためには、情意面や態度面について、自己の感情や行動を統制する能力や、よりよい生活や人間関係を自主的に生成する態度等を育むことが重要」と述べられています。では、一人一人が幸福な人生を自ら創り出す生き方とはどんな生き方なのでしょうか。それは、社会に参画し、役に立っているやりがいを実感し、社会の活力を生み出そうとする生き方ではないかと私は考えています。まさに、仲間が仲間を支援するピア・サポートがめざしている生き方と合致しています。

2 子どもの Well-being を育む 1 次支援

さて、昨今学校現場をめぐっては、不登校やいじめ問題などすべての子どもたちが安心して学べる状況にはありません。貧困の問題や虐待問題など、家庭が抱える困難な状況の中で学校に通っている子どもたちも増えています。マルチレベル・アプローチ



(図) マルチレベル・アプローチ（包括的生徒指導）

の2次支援や3次支援の必要な子どもたちが増えているのが現状です。教育相談の担当者やスクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、医療機関等につなぐケースも増え、チーム学校が機能することに期待するところです。しかしながら、図に示すように2次支援や3次支援の子どもにとっても1次支援は大切なものです。

(1) 基本的自尊感情を育む

学校は、「〇〇ができた」「△△が得意」など、他者と比較しながらほめられて大きくなる「すごい自分」（社会的自尊感情）を育むことが得意です。教師や大人の“条件付きの愛”が注がれます。しかし、どんな時も支えになる「ありのままの自分」（基本的自尊感情）が十分に育っていない子どもたちは愛情飢餓状態で、「すごい自分」を支える力が脆弱です。社会に参画し、役に立っているやりがいを感じることは難しいです。

そこで、温かな共有体験を通して、この基本的自尊感情を育むことに着目しましょう。ペア学習やグループ学習等、他者との共有体験を通して「できた」、「わかった」の喜びや、「むずかしいなあ」「できない」の困った気持ち、「ありがとう」「頑張れたね」と感謝や達成感を分かち合える機会を作っていくのです。思いやる気持ちやかけがえのない自分の存在を他者との協働を通して育むと、安心して学べる環境もできてきます。そのために教師がそうした意図を持って授業や様々な活動を仕組むことが前提となります。

(2) すでにある自分の内なる力を見出し、他者貢献に活かす

誰もが誰かの役に立ちたいと思っています。2次支援や3次支援の対象となる子どもにとってもそれは同じです。そのためには、自分自身をまずは自分で支える力、自分が困ったときに自分を支える力が必要です。但馬やまびこの郷公開講座（5/25）では「自分が困難な時にどのようにして乗り越えてきたのか」を聞いた他のメンバーが、話し手の強みや良い、素晴らしいと感じた点を付箋に書いてフィードバックする演習を実施しました。自分で気づいていた点も気づいていなかった点も他者から認められる体験は喜びを伴い、自尊感情を高めることに役立ちます。また、「価値観ババ抜き」という演習を通して、自分が大切にしている価値観を見出しました。自分の大切にしている価値観との出会いは誇らしいものです。そして、他者が大切にしている価値観への畏敬の念も生まれます。そうした内なる自分や他者と出会い、自分を肯定的に受け止めながら、誰かのために役立つ活動（ピア・サポート）を行うことで、他者から感謝される体験に対して感謝の念が生まれます。2次支援や3次支援の子どもたちが、他の子どもたちと共にピア・サポート活動を行うことで、Well-beingが高まる事例を見ることができます。

人生100年時代をどのように生きていくのかが自分自身に、家族に、地域にあらゆるコミュニティに問われます。前述の研修で実施した演習を学校でも是非実施してほしいと思います。

※ Well-being…現代的ソーシャルサービスの達成目標として、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

◆◆筆者紹介（菱田 準子／ひしだ じゅんこ）◆◆

立命館大学大学院教職研究科教授。

公立中学校教諭をスタートに、指導主事や学校長を経験。学級・学年集団づくりに取り組み、ピア・サポートプログラムと出会う。日本ピア・サポート学会の常任理事を務めながら、ピア・サポートの普及・発展を行っている。また、みんなが“幸福”であることを願って、月刊学校教育相談でポジティブ心理学を2017年から連載中。

《資格》ピア・サポートコーディネーター、レジリエンス・トレーニング講師、Tree of Life 講師、エグゼクティブメンター、学校心理士、臨床心理士

